

浪江で農業を始めませんか？

就農に関する相談を受け付けています



浪江町農林水産課では、町内での新規就農に関する相談を随時受け付けています。就農前の研修先や各種支援制度についてもご紹介することができます。就農イベントにも積極的に参加していますので、ぜひお気軽にお問い合わせください！



パンフレット
ダウンロードはこちら



お問い合わせ／
浪江町農林水産課
TEL: 0240-34-0245

浪江フラワープロジェクトの
最新情報をホームページで！

これまでの花通信やアーカイブ動画を公開中！

<https://www.namie-flower.jp>



Facebookも
チェック

浪江町 農林水産課

〒979-1592 福島県双葉郡浪江町大字幾世橋字六反田7-2

TEL: 0240-34-0245

<https://www.town.namie.fukushima.jp>



浪江町



冬

Winter
2022

なみえ花通信

浪江の花作りと農業の最新情報をお届け！



未来へ向け、可能性を感じる 花木栽培の魅力を伝えたい

浪江町で花木栽培をはじめから4年目。花木の緑も鮮やかになってきた“小野田ファーム”を経営する小野田浩宗さん、留美さん。現在、ユーカリ・アカシア・イワナンテン・オリーブなど、13品目を栽培し、目標としている周年出荷に向け邁進しています。浩宗さんは「ここ3年で花木の売上も順調に上がっています。生業としての花木農業に、少しずつ手応えを感じています」との事。「もちろん自然が相手ですから、リスクもあります。コロナなどで需要が減ることもありますから、新しく就農する方には、花木だけでなく、野菜栽培などとの組み合わせなど、リスク管理含めトータルで“浪江でできる農業”も提案したいと思っていますよ」。留美さんは「今の浪江町は新しい町づくりが始まっています。だから新しい人たちが入って来やすいように、私たちが土台を作らないといけないと思っています。次の世代の浪江町にバトンを渡すのも役割と思っています」と語ってくれました。



緑が鮮やかに色づいてきた花木畑。成長を見守るのが毎日の楽しみ



ここ3年で売上も順調に伸びている花木栽培に可能性を感じています



きれいに定植されたトルコギキョウの苗。トルコギキョウ栽培は独学ではじめました



「5年ごとに大きなライフイベントが訪れるんです」と笑顔で話す高田さん夫婦

夢はトルコギキョウの輸出! 光ちゃん農園のチャレンジ紹介

浪江町苧野地区にある“光ちゃん農園”は、高田秀光さんが55歳になったのを期に、長年勤め上げた銀行を退職し、地元で花農家という思いから始まりました。リンドウや野菜栽培を中心に、順調に進んでいたその5年後、東日本大震災に見舞われ避難生活を余儀なくされました。避難生活から5年、故郷の耕作放棄地の姿を目の当たりにし、高田さんの農地のあった場所が除染後の保安全管理や作付実証などが行われた管理耕作区域に指定されたのもあり、農業再開を決意。当時、Jinふる～の川村さん達のトルコギキョウが注目されていたこともあり、なんと独学でトルコギキョウ栽培をスタートしました。高田さんご夫妻は「まだまだ始まったばかり。自信も何もありませんよ」と言いつつ、「海外へ輸出できるトルコギキョウを作りたい」と大きな夢を語っていただきました。今後は切花だけでなく、花木にもチャレンジしたいとのこと。光ちゃん農園のチャレンジは続きます!

世界一を目指して! アルメーレ 国際園芸博覧会に出品決定

浪江町花農家“Jinふる〜”さんのトルコギキョウが、オランダ・アルメーレ国際園芸博覧会 2022 (開催予定) に、コンテスト出品される事が決まりました。国際園芸博覧会 (フロリアード) は園芸先進国であるオランダで『10年に一度開催される世界最大の花の祭典』。世界で最も歴史・伝統があり「花のオリンピック」と言われています。中でも、コンテスト出品は国内の厳しい選考を経て出品され、国際的に榮譽ある賞の一つとして国内外の園芸業界関係者から注目されています。

現在、Jinふる〜さんでは6月の審査へ向け、トルコギキョウを育成中。清水裕香里代表は「真摯に、誠実に、いつも通りトルコギキョウを育てるだけ」と意気込みを語ってくれました。

世界ナンバーワンを目指す浪江町のトルコギキョウ。これからも目が離せません。結果はまた本誌にてご報告させていただきます。



「今期は浪江町のポテンシャルに我々が合わせられなかった」と厳しい評価も



「まだまだ太さがこんな物ではないんです。うちの長ネぎは」と語る佐藤さん



コンテスト出品用に定植された苗。「いつも通りに育てるだけ」と語る清水代表



新しい育成方法など、試行錯誤しながら最良の品質を目指しています



群馬電気工業の 浪江町産、長ネギ初収穫!

“群馬電機工業”が生産する長ネギの初収穫が行われました。元々、群馬電機工業は、群馬県を中心に長ネギを生産され、実績を上げてきましたが、初めての福島県浪江町での栽培は、気候や土壌の違いから、かなり苦戦したとの事。農業担当の佐藤尚之さんは「今年の出来は100点満点中、50点。自分達が目指すところには遠かったのですが、一年間でさまざまなデータが取れました。当然、改善もすでにしていますから、次の定植では対策も万全ですよ。まずは一足飛びでなく、80点を目指します」。かなり辛口の自己評価ですが、浪江の風土に合った栽培方法で、100点満点の長ネギができる日が楽しみです。また、来期の作付け面積は現在の2haから7haへと大幅に拡大予定。それをふまえて、農業の担い手を地元採用で確保しています。現在も新しいパートナーを募集しているので、長ネギ栽培に興味のある方は、ぜひ群馬電機工業に問い合わせてください。

What's new? 浪江の旬な情報をお届け!

What's
new

01

福島県産 浪江のイチゴ



いよいよ浪江町も「イチゴ」の栽培・出荷がはじまりました。道の駅なみえで販売され、好評を博しました。浪江町のイチゴの情報は今後、本誌で紹介していきます。

What's
new

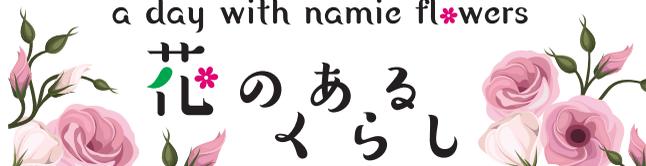
02

若いチカラぞくぞく結集



浪江町の農業では若いチカラがぞくぞく結集しています。酒田地区のお米の専業農家 半谷 啓徳さんは一般企業で会社員として働いていましたが、浪江町に戻り家業である米農家を継ぎました。また、株式会社浜のあきんど代表・なみえファーム代表 和泉 亘さんは、エゴマ栽培を中心に農業に取り組んでいます。就農に関しては裏表紙でも紹介しています。ぜひご覧ください。

a day with namie flowers



今年度のなみえ花通信では、季節に合わせて“浪江町の花”を使ったフラワーアレンジメントをご紹介します。春夏秋冬さまざまな楽しみを!ご自宅でもトライしてみてください!



テーマ“ビッグストック”

今回は「オフィス空間」にマッチするストックの使い方を紹介。ストックはスペースを広く使える利点があります。さらに何本かのストックと季節の花を組み合わせてボリューム感を演出。スペースを持って余しているオフィスのエントランスを色鮮やかに演出してみたいはいかがですか? 花材: ストック、リュウコギリネ、コデマリ

糸で束ねるのは
フラワーアレンジの裏技です



Point! まとめて魅せる

数本のストックをまとめて1本のストックに見せるとちょっと不思議なビッグストックの出来上がり。さらにアクセントで様々な花材を合わせて自分だけのオリジナルITYあふれるストックアレンジの完成♪

講師: フラワーコーディネーター 近美 豪人

北京花博2019 福島県ブースプロデューサー。
有限会社 花のチカミ代表。日花協全国大会優勝、
JFTD Japan cup準優勝、World cup日本代表
選考会出場など、数々の大会で入賞を果たす。

